

中小企業の情報セキュリティ対策—できることから始めよう

情報セキュリティ対策は、決してPCやソフト対策に限定されません。書類ベースの情報入手から廃棄までの管理を含めた情報管理のルール整備と適正な運用が情報漏えいとそれに伴う経営リスク防止につながります。

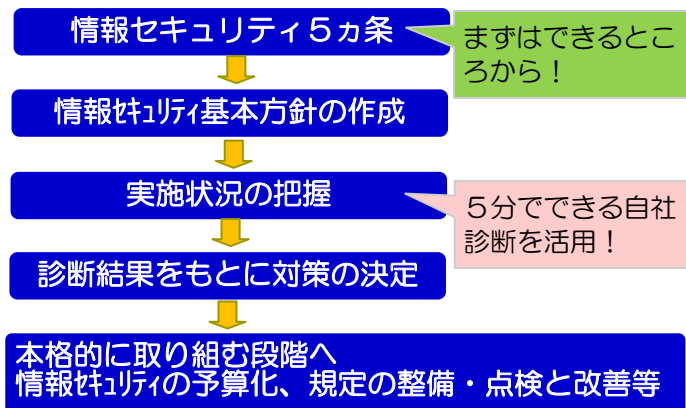
●対策実施は経営者主導がキー！

情報セキュリティ対策は、経営者のリーダーシップで自社にあった対策実施を進めるのがポイント。具体的には次の7項目について、経営者自らまたは責任者に指示し、対策を進めることとなります。

- ①組織全体の方針の決定
- ②予算や人材の確保
- ③対策を検討させて実行を指示
- ④対策については適宜見直しを指示
- ⑤緊急時の対応や復旧のための体制の整備
- ⑥委託サービス利用では、お互いの責任を明確に
- ⑦情報セキュリティの最新動向の収集



◆セキュリティ対策の進め方◆



●すぐできる“情報セキュリティ5カ条”

◆OSやソフトウェアは常に最新状況に！

攻撃に弱い穴が見つかったら、穴埋め用に配信されるのが修正プログラム。すぐに更新が必要。PC側で自動認識させるのが有効です。



◆ウイルス対策ソフトを導入しよう！

PCのウイルス対策ソフトは外部へ被害を出さないためにも必須。ただし、検知されないウイルスもあるため過信は禁物。★怪しいメールを開かない、★安易にクリックしないなど、基本的なIT教育も併せて行いましょう。

◆パスワードを強化しよう！

定期的にパスワード変更していますか？推測されないパスワードを設定し、使い回さないことで、パスワード盗難を防止しましょう。

◆共有設定を見直そう！

アクセス制限の不足は、開いたままの扉と同じです。サーバーのなかの重要ファイルを保管しているフォルダのアクセス権限設定など、今一度確認を！

◆脅威や手口を知ろう！

敵を知ることが最大の防御！無料と謳っておきながら、突然高額な請求画面を表示する“ワソクリック請求”や、有用ソフトと偽り“ウイルスをインストール”させる手口など、巧妙化する犯罪手口を知って、畏に気づき被害を未然に防ぎましょう。

●対策ヒント満載の“5分でできる！情報セキュリティ自社診断”

◆自社の状況が簡単にわかる！

“5分でできる！情報セキュリティ自社診断”は、責任者や経営者が25問の質問に答えるだけで、自社のセキュリティ対策の状況が診断できる無料サービス。IPAセキュリティセンターのHPでオンライン診断ができます。

◆自社の弱みが一目でわかる！

診断結果は点数とレーダーチャートで表示され、自社の弱みがすぐわかります。診断は繰り返しでき、過去分と比較できるので、対策実施前後の変化が実感できます。

◆診断項目は3分野

その1 基本的対策の診断

質問項目は①基本的対策、②従業員対策、③組織対策の3分野にわたり、このうち基本的対策の診断項目は、右上掲載の“情報セキュリティ5カ条”です。

ソフトを最新バージョンに維持するのに役立つと紹介

されているのが「MyJVNIバージョンチェック」。PC内のソフトが最新バージョンかどうか判定できます。

その2 従業員としての対策

電子メールやインターネット利用時のルール、事務所の安全管理、情報持出しのルール、バックアップのルール、情報の安全処分などについて診断判定されます。

その3 組織としての対策

守秘義務、従業員教育、取引先管理、事故への備え等に対する組織の対策状況が診断されます。

◆コストをかけない対策からスタート！

診断結果の解説では、その企業にお勧めの資料や診断ツール、具体的な対策が案内され、そのほとんどはシステム担当者や従業員各自が実行すればできる対策です。

情報漏えいの6割が従業員のうっかりミスによるもの！会社の信用や取引先を失う経営リスクを避けるためにも、コストをかけずにできる対策からスタートしてみたいはいかがですか？